

試験成績書

発行番号 HVE0000333-001
発行日 2019年5月27日

環境計量証明事業(濃度登録第6号)
環境計量証明事業(騒音登録第3号)
環境計量証明事業(振動登録第6号)
特定計量証明事業(第03-01号)

株式会社 クリーンタウン 様

株式会社 日吉
技術部
環境計量士 築山 直弘
〒523-8555
滋賀県近江八幡市北之庄町908番地
TEL 0748-32-5001(直通)
FAX 0748-32-4192

貴依頼による試験の結果を次のとおり報告いたします。

対象	排ガス中のダイオキシン類濃度測定
採取場所及び試料名	焼却炉 煙突 排ガス
試料採取日	2019年5月7日 10:50 ~ 14:50
試料採取会社	東海プラント分析センター 株式会社
試料搬入	2019年5月9日 郵送受け取り
測定方法	ケイラックス®アッセイ [平成17年環境省告示第92号第1の1]

Total ダイオキシン類(PCDDs+PCDFs+コプラナーPCBs)分析結果

項目	実測濃度 (酸素換算値) ng/m3N	試料における 定量下限値 ng/m3N	試料における 検出下限値 ng/m3N	測定量 (毒性等量) ng-TEQ/m3N
Total ダイオキシン類 (PCDDs + PCDFs + コプラナーPCBs)	4.7	0.024	0.012	1.0

・分析期間は、2019年5月9日 ~ 2019年5月27日 です。

測定量への算出方法	・測定量(毒性等量) = 実測濃度 × 換算係数 換算係数 : 0.221 (排ガス)
-----------	--

【備考】

1. 実測濃度中の括弧付きの数値は、検出下限以上定量下限値未満の濃度であることを示す。
2. 実測濃度の"ND"は、検出下限値未満であることを示す。
3. 測定量(毒性等量)"零"は、定量下限値未満であることを示す。
4. 「測定量への算出方法」とは、予め多検体のHRGC/HRMS法によって測定された試料について本生物検定法による測定を行い、両法における相関関係を求め、その回帰式の傾きを換算係数として、実測濃度から測定量(毒性等量)を算出した。
5. 本測定方法は、JIS K 0463(2009)「アリル炭化水素受容体結合レポーター遺伝子アッセイ通則 -ダイオキシン類のAhRアッセイ(平成21年3月20日制定)」に従っている。
6. 排ガス中のダイオキシン類濃度は、酸素12%換算値である。

ダイオキシン類分析結果

No. HVE0000333-001

【試料採取状況】

採取方法	JIS K 0311 排ガス中のダイオキシン類の測定方法 準拠
試料採取場所	焼却炉煙突
試料採取会社	東海プラント分析センター 株式会社
採取日時	2019年5月7日 10:50 ~ 14:50
標準状態での吸引ガス量 (m ³ N)	4.071
酸素実測値 Os (%)	15.3

【Total ダイオキシン類(PCDDs+PCDFs+コプラナーPCBs)分析結果】

項目	最終排出口(0℃、101.325kPa)	
	実測濃度	
	実測値 Cs (ng/m ³ N)	酸素12%換算値 C (ng/m ³ N)
Total ダイオキシン類 (PCDDs+PCDFs+コプラナーPCBs)	3.0	4.7

【備考】

1. 酸素12%換算値は、次の式によって算出した。

$$C = \frac{21 - 12}{21 - O_s} \times C_s$$

C : 酸素の濃度12%における濃度/試料における定量下限値・検出下限値(実測値)(ng/m³N)

O_s : 排出ガス中の酸素の濃度(%)

C_s : 排出ガス中の実測濃度(ng/m³N)/試料における定量下限値・検出下限値(実測値)

2. 排出ガス中の酸素の濃度が20%を超える場合は、O_s = 20 とする。